

留萌史上最悪の水害。



この度、本市は有史以来の水害に見舞われ、被害を受けられました皆様には心からお見舞いを申し上げます。

農作物を始め、市街地の一部で受けた被害は甚大であります。今後は復旧に万全を期すると共に、災害に強いまちづくりに渾身の努力を尽くして参る覚悟であります。なお、ご協力を賜りました多くの市民、各団体の皆様には衷心より厚くお礼を申し上げます。

留萌市長 五十嵐 悦郎

8月25日・26日



▲濁流が栄萌橋にぶつかる



記録的な集中豪雨



▲水につかった開運町



▲崩れた民家（幌糠町）



▲二つに割れた橋（幌糠地区）



▲水につかった家具（堀川町）



日本海側に停滞した前線の影響で、雷を伴った集中豪雨に見舞われ、留萌川がはらんで約4,000世帯に避難命令が出されたほか、国道233号線や鉄道が各地で不通となり、住宅の床上、床下浸水や停電も続出した。

留萌市は、この豪雨に、25日午後7時30分、「災害対策本部」（本部長五十嵐悦郎市長）を設置、職員を非常事態招集をして不眠の警戒体制をとり、災害発生後の処置や避難体制に万全を期しました。雨による災害対策本部の設置は56年以来7年ぶり。

この災害対策本部では、何をしてもケガ人や死亡者をださないという人命尊重を考えた対策にあたり、幸にして人命にかかる事故はおこりませんでした。

ただ、今回の災害において留萌市の被害状況は、床上、床下浸水合わせて3,345棟、3,679世帯。被害人員は市の人口の約半にあたる9,413人。市内のガケ崩れは瀬越町など3カ所、地すべりは三泊町の一カ所。農作物・水産加工・商業・工業にも多大な被害がおよびました。留萌史

上最悪の水害“です。今回の水害は、自然界の猛威にたいしてあらためておどろかされると共に、常日頃から災害に対する心がまえが必要だと感じました。



▲留萌中学校に避難した市民

マ
チ
が
沈
んだ